

博士論文審査結果の概要

申請者氏名	LKhagvademchig Jadamba			
審査委員会主査	職名	准教授	氏名	島村一平
論文題目				
双頭のモンゴル仏教 現代モンゴル仏教の教団内政治に関する歴史人類学的研究				
Double Headed Mongolian Buddhism : A Historical and Anthropological Study on Identity Politics inside the Mongolian Institution.				
論文の内容の要旨および審査結果の要旨				
<p>本論文は、ポスト社会主義時代のモンゴルの仏教教団内において、活仏（ジェブツンダンパ・ホトグト）と僧院長（ハンバ・ラマ）という対立する二人の指導者（双頭）が現れる過程を歴史人類学の手法を用いて明らかにした力作である。本論文は、全246頁（資料・文献リスト含む）が英語で執筆されている。本論で論じたジェブツンダンパ9世という活仏は社会主義以前の仏教指導者の転生者であり、亡命チベット人（インド在住）である一方、僧院長は民族的にも国籍としてもモンゴル人（モンゴル国民）であるものの、その地位は社会主義時代に制度化された指導者である。本博士論文は、二人の指導者に注目しながら、社会主義以前のモンゴル仏教の伝統が破壊され、社会主義時代に「ハンバラマ制度」と筆者が呼ぶ新たな教団の制度が形成される過程を論じた上で、社会主義によってモンゴルのナショナルな仏教が成立していく経緯と二人の指導者の相克を明らかにした。</p> <p>本論文は、まずは社会主義時代のモンゴル仏教教団の制度化過程を明らかにしたという点で高く評価される。なぜなら社会主義時代、仏教を中心とした宗教は厳しく抑圧されていたとするのが斯界の支配言説であったからである。これに対し本研究は、ソ連共産党やモンゴル人民革命党が仏教を情宣に利用しながら教団を維持していくという、国内外で全</p>				

く知られてこなかった社会主義時代のモンゴルの仏教教団の在り様を明らかにした。

第二に本研究は、ダライラマが認定したジェプツンダンバ 9 世というモンゴル最大の活仏と社会主義時代に制度化された僧院長（ハンバラマ）が、1990 年代後半から 2000 年代にかけてモンゴル仏教の主導権を巡って争った駆け引きの実態を明らかにした。このように仏教教団のポリティクスを内側から描き出したという点においても類をみない研究である。それは、元僧侶であると同時にモンゴルにおけるダライラマの通訳であるという申請者だからこそできた芸当であったといえよう。また英語、サンスクリット語、チベット語、モンゴル語、ロシア語、漢語といった多くの言語による文献を渉猟し、論を構成したのも評価に値する。

その一方で、社会主義時代に伝統的に寺院経営の責任者であったはずの僧院長が、活仏の持っていた精神的指導者としての役割を兼ねるようになった過程に関する説明が足りないという指摘があった。またナショナル・アイデンティティと宗教アイデンティティの相克を人類学的に理論化していくという点において改善の余地があることも指摘された。細かい点においては、漢語のラテン表記に統一を欠いていたり、日本語の文献が参照されていないといった指摘もあったが、それらが本論の根本的な価値を損ねるものではないと判断するものである。

以上のことから、Lkhagvademchig Jadamba 氏の博士論文は、文化人類学やモンゴル仏教研究に多くの新しい知見をもたらしていることは明白であり、本審査委員会は全会一致で申請者の博士学位請求論文を合格とするものである。